

# 公明党 視察研修報告書

令和元年 8 月 7 日

ふじみ野市議会  
議長 小林 憲 人 様

ふじみ野市議会 公明党  
代表 伊藤 美枝子

ふじみ野市議会公明党所属議員 4 名は、令和元年 7 月 25 日（木）東京都荒川区において荒川区中学校防災部の取組～防災ジュニアリーダーの育成について～、及び荒川区立複合文化施設「ゆいの森あらかわ」について、それぞれ行政視察研修を実施したので報告する。

## 1 出席議員

伊 藤 美枝子  
島 田 和 泉  
川 畑 京 子  
鈴 木 美 恵

## 2 視察研修先

- (1) 荒川区南千住第二中学校
- (2) 荒川区立複合文化施設「ゆいの森あらかわ」  
令和元年 7 月 25 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 5 時

## 3 視察研修までの経緯

想定外の災害が続く昨今、ふと見渡すと、昼間若い方は働きに出て、地域にいらっしゃるのは高齢者の方がほとんどで、一人暮らしの高齢者も非常に多いのが現状です。そのことを不安に思っている声もよく聞きます。

そんなとき、荒川区の中学生が地域の為に防災活動をしているという話を聞きました。またその中でも、いざというときの高齢者避難誘導のために、日頃から繋がりをもち「絆ネットワーク」という取組に強く心を惹かれ、視察を要望させていただきました。

そして、この度防災ジュニアリーダーのモデル校となった「南千住第二中学校」への視察が実現となりました。

さらに、本市でも文化施設の建て替えの時期にきており、参考にさせていただければと図書館、文学館、こども広場が一体となった複合文化施設「ゆいの森あらかわ」も見学させていただきました。

## 4 視察概要

### (1) 荒川区中学校防災部の取組（荒川区南千住第二中学校） ～防災ジュニアリーダーの育成について～

#### ① 視察目的

中学校の防災部の創設に至る経緯と取組、防災ジュニアリーダーの育成について学ぶ。

#### ② 視察内容

齊藤進校長先生より創設に至る経緯の説明と現在の活動状況と拡がりを教えていただいた。実際に東日本大震災の被災地である釜石市の中学校を訪問した経験により、被災時の中学生の役割が大きいことを感じ防災意識が高まった。その後、防災に力を入れている区長、教育長、各校長の話し合いのもと、南千住第二中学校から始まった防災部が荒川区全中学校に創設された。

月に一度の高齢者避難誘導のための「絆ネットワーク」を中心に避難訓練、地域行事ボランティアに参加している。また防災の知識を向上させるために、ジュニア防災検定も実施されている。被災地の中学校との交流も全中学校の代表が参加して行われている。日頃の生き生きとした生徒の活動の写真をスライドで見せていただきながら、さらに説明を受けた。日本赤十字社のポスターに掲載されたり、ジャパン・レジリエンス・アワードグランプリ賞をはじめ、多くの賞を受賞していることもわかった。さらに、生徒自らの要望で区内10校が集まって、皆で荒川区の防災について話し合う「中学生防災対策会議」が平成27年度から実施されている。これには中学生だけでなく、校長、防災部顧問、消防署、区の防災課も参加している。その後、質疑応答に入った。

危険を伴うこともあるのではないかとという保護者の方の理解を得るために様々な苦労があったのか、説明会が開かれたのかを尋ねてみたところ、そんな心配は全くないこと、今まで保護者からのクレームが一件もないとのことで、防災部の創設前より保護者と学校との意志疎通がしっかりとされていたことと、防災部で活動する子どもたちの人間的な成長が著しいことが明らかになった。

### (2) 荒川区立複合文化施設「ゆいの森あらかわ」

#### ① 視察目的

設備と工夫、コンセプトを学び、本市で間もなく建て替えとなる文化施設の参考になる部分を学ぶ。

## ② 視察内容

「読書を愛するまち・あらかわ」宣言をもとに、図書館を中心に、吉村昭記念文学館、こども広場、ホールが一体となった全てのエリアを案内していただいた。

こども広場には遊び場所、絵本のコーナー、乳幼児の一時預かりのコーナーも充実している。

緑も取り入れ、郷土の文化人を大切にし、区民が自然と触れられるようになっている。すべての年代の方が利用されていることが一目でわかった。

## 5 所感

### (1) 荒川区中学校防災部の取組（荒川区南千住第二中学校）

～防災ジュニアリーダーの育成について～

#### 鈴木美恵議員所感

防災部の活躍により、避難時の安全もさることながら、防災の意識を地域ぐるみで持てること、心のネットワークが広がること、そして人として必要とされることの喜びを年代を越えて感じられる素晴らしい取組だと感じた。また齊藤校長より、不登校の生徒、いじめが少なくなったこと、思いやりをもてる生徒、自発的に行動できる生徒が増えたことなど、感動のエピソードを伺った。是非とも本市でもこの取組を取り入れていきたい。

#### 伊藤美枝子議員所感

平成24年度に「災害時に貢献できる中学生の育成」を目的に創設された、南千住第二中学校のレスキュー部の経緯や取組を、齊藤校長からお伺い致しました。まず、初めに実感したことは、区長や校長先生のリーダーシップによる所が大きいと感じた。

中学校で、これまで無かった部活を立ち上げ、「自分たちの町は自分たちで守る」という意識の醸成やこの今の活動が後年のまちの人材育成に繋がっていくという、教育の本質を見る思いがした。

平成27年度からは、中学校10校、小学校1校も加わり、中学生防災対策会議なども生徒より発案され実施している。

東日本大震災で被災した、釜石東中学校との交流や地域の高齢者との「絆ネットワーク」活動、保育園との合同避難訓練など、さまざまな機会を活用し、将来の災害に備える取組は目を見張るものがあった。本市においても、出来るところからの取組を行なっていきたいと考える。

#### 島田和泉議員所感

### 1 事業について

- ・事業の主体は、教育委員会が所管されている。

- ・荒川区の防災計画書などには掲載されていないことから教育の一環で行われている事業であると推察する。
- ・活動については、区の広報誌や学校だよりなどで紹介している。
- ・モデル校を作ったのではなく、指導者の思いが強い学校(南千住第二中学校)がモデル校となった。
- ・教育活動の一環として JRC(Junior Red Cross)活動(青少年赤十字)の活動に力を入れて自主性を育む教育方針を進めている。
- ・東日本大震災以降に被災地派遣を全校(荒川区内の中学校)で取り組むなど、防災意識の啓発活動も力を入れている。
- ・学校行事のお知らせをポスティングや訪問手渡し、運動会開催前後での挨拶活動などを行い地域の方々とコミュニケーションを取っている。
- ・学校と保護者の間では同意書の提出を依頼し、相互の信頼関係を構築している。
- ・地域の防災活動への参加や「突撃リヤカー訓練隊」活動を行い、公園などに出向き出前の防災普及活動を行っている。
- ・ジュニア防災検定(一般財団法人防災検定協会)に積極的に取り組むことで知識向上やモチベーションの向上につなげている。(平成27年度から累計で10校708名が取得)
- ・中学生防災対策会議を生徒の自発的意見から実施され、区内10校の生徒が集まり校長、防災部顧問、消防署、防災課の大人も参加している。

## 2 自治体の背景

- ・東京23区内であることから交通の利便性が高い。
- ・区の面積は、本市よりも狭く10.16平方キロメートル、人口は約2倍(21万人)、産業として農業などは無く(産出額は表示なし)、製造業、商業、建設などが中心。
- ・首長、教育長の防災意識が高く事業化への取組について協力的であった。

## 3 活動による効果

- ・生徒の自主性や自立性が育まれ、いじめ問題などの発生も減少している。
- ・運動会前後の挨拶活動により近隣からのクレームが減少した。
- ・地域の防災活動や地域住民との絆の構築努力により地域行事の活性化に寄与している。

## 4 今後の課題

- ・小学校への広がり。
- ・地域との連携や卒業生(OB、OG)との繋がりや活躍の場の提供。

## 5 本市へ展開の可能性・効果

- ・若者世代(小学生、中学生、高校生など)の自主性や自立性を高めることに効果的な手法と考えている。ただし地域性が異なり市街化区域や調整区域により生活住環境が異なることから市内の全中学校で一律の活動にする難しさを感じている。
- ・モデル校をつくるにも主体者となる学校に、防災に積極的な学校長や教職員の育成をどのように行うのか、児童・生徒の保護者との協議など下地を作り上げることも重要と考える。
- ・地域協働学校が展開されているが小学校、中学校の市内全校で機能しているのか調査が必要と考える。学校運営協議会の方々と学校長、教職員の協力を受けられるか(機能しているのか)など。
- ・小学校や中学校へ防災教育による取組方法として、部活動として定着させる基盤整備をどのような方法で構築できるのか、現状ではアイデアが無い。

## 6 感想

この度の視察は、自主性や自立性を育むための教育方法として大変参考になる先進事例であると感じました。教育の一環として取り組んでいることにより児童・生徒を守ることが出来ていると思いました。理由としては、必要以上の拡大は行わない事(訪問先についても協力者の方に絞り込み、安全第一としている)で活動の主体者である児童・生徒に必要な以上の負担が掛からず、担当されている顧問や教職員への負担も過大にならない様に配慮されていると考えます。

一定の住民との合意形成が取れることは大切なことですが、地域全体との繋がりとして考えた場合には効果は限定的と推測され、効果的に広げるためには更なる工夫が必要であろうと考えます。

特に、主導的な立場となる学校長や教職員に専門的な知識を有する方や情熱を傾けられる方が居なければ実現が難しい事業であると考えます。

### 川畑京子議員所感

#### 1 視察概要

荒川区の全公立中学校に創設されている防災部について、創設された経緯や目的、防災ジュニアリーダーの取組及び育成について学んだ。地域との関わり、具体的な活動内容や防災部が荒川区全体として取り組まれるまで至った経緯として、南千住第二中学校(レスキュー部)の視察を行った。

#### 2 視察感想

荒川区は10,16平方キロメートルの面積に21万人強の人口、そして木造住宅密集地域が約6割という状況であり、首都直下型地震など防災に対する行政、学校、区民の意識のもとと高い地域であることが伺えた。ふじみ野市においても、同様の状況が想定されることから学ぶ点は多いと感じた。防災部のスタートには、少し背景があり、東日本大震災を機に、釜石の中学校を訪問。被災地の生徒との交流を通じ、レスキュー部を創設。その後、ボランティア活動の一環として、部活動という位置づけで取組を行っている。生徒自ら、活動する様子を伺い、学校、地域が一体となって取り組めるように、サポートしてきた教育委員会が全学校に創設した点は素晴らしいと感じた。

ふじみ野市としては、中心となり活動してきた、荒川区南千住第二中学校の齋藤校長などから講演をいただく機会があれば望ましいと感じた。

## (2) 荒川区立複合文化施設「ゆいの森あらかわ」について

### 鈴木美恵議員所感

本市も複合文化施設を建設するにあたり、オープンであらゆる年代の方が様々な目的で集まれる場所としたいという共通したコンセプトをもっているため参考になった。

例えばホール部分の座席も普段は図書の閲覧席として解放されているところや、こどもも楽しめる場所になっているところや、勉強したい人が集中できるコーナー、また緑が多く、くつろげる空間にもなっているところです。

### 川畑京子議員所感

#### 1 視察概要

荒川区にある中央図書館・吉村記念文学館・ゆいの森子どもひろば（複合施設）の施設の見学、視察を行った。

#### 2 視察感想

読書を愛するまち・あらかわ宣言をされ、充実した図書館の運営事業を区で行っていた。

これまで、学校図書館や読書環境の整備に努めてきたことから、最新の施設の充実を伺える。遊びラウンジや柳田邦男絵本コーナーなども配置。施設の見学で一番感じた事は、あらゆる世代の来館者がいたことである。特に、若い世代を中心に館内が賑わっていた。空調は床から調整。バルコニーには緑の植栽がポイントである。子育て応援の一時預かりなどの事業もあり、保護者の利便性も考えられていた。多目的小ホール、展示室などバランスの良さを、ふじみ野市でも今後、是非取り入れていきたい。